4　設置場所

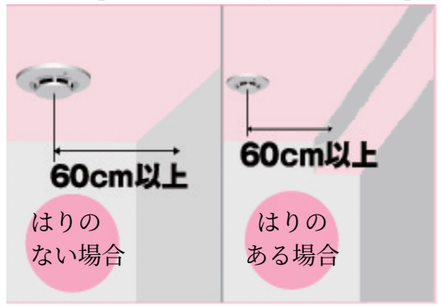
◆必要な場所（○印）
　寝室（必ず設置）
　階段（寝室が２階以上にある場合は設置）
　　→　**煙感知式**

◆設置をおすすめする場所（□印）
　台所
　　→　**熱感知式**

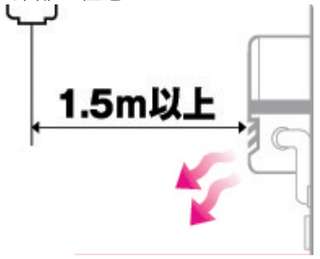
5　取付位置について

◆天井へ取り付ける場合

＜「壁」「エアコン・換気扇の吹出口」との距離に注意＞



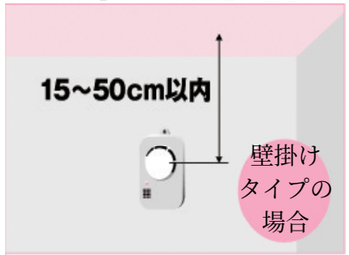
・天井にはりがない場合
　壁から60㎝以上離します。
・天井にはりがある場合
　はりから60㎝以上離します。



「エアコンや換気扇の吹出口」付近では、１．５m以上離しましょう。

◆壁面に取り付ける場合

＜「天井」からの距離に注意＞



天井から15～50㎝以内に火災警報器の中心がくるようにします。

6　警報器を取付けた後は

実際に火災がおきた時に、きちんと警報されるよう、お手入れが必要です。

◇定期的に（1月に1度程度）警報器が鳴るかテストしましょう。
◇電池式は電池交換が必要です。早めに交換しましょう。
◇警報器はおおむね１０年をめどに交換しましょう。
　※種類によって交換時期が異なりますので、
　　詳しくは説明書・仕様書をご覧下さい。

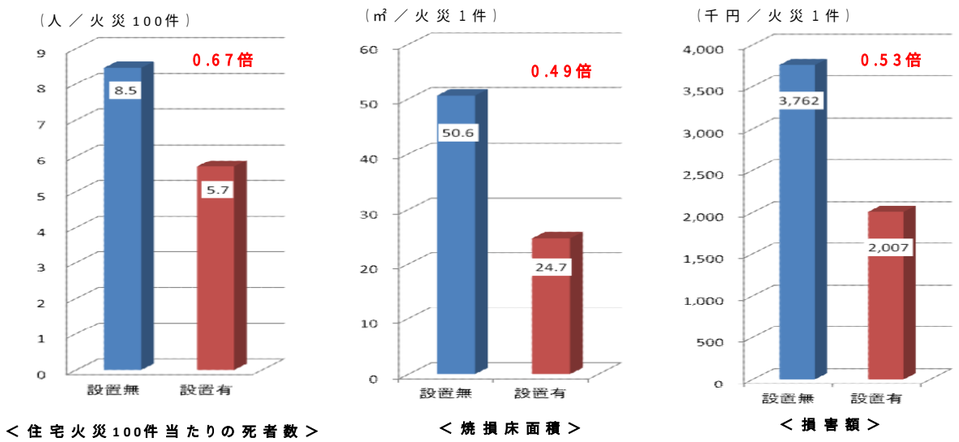
岐阜県消防課

すべての住宅で住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。

1　なぜ「住宅用火災警報器」を設置しなければいけないのか

○住宅火災でなくなられた方の約６割の人が「逃げおくれ」によるものです。
○住宅用火災警報器を設置している場合は、設置していない場合に比べ、
　「死者の発生」は２／３減、「焼損状況」は半減します。

住宅用火災警報器の設置による被害減少の効果



注１）「死者」とは、火災現場において火災に直接起因して死亡した者であり、火災により負傷した後48時間以内に死亡した者を含む。
注２）死者の発生した経過が「殺人・自損」（放火自殺、放火自殺者の巻添者、放火殺人の犠牲者）であるものを除く。

※「失火を原因とした住宅火災」の分析結果（平成２１年から平成２３年の３年間実績「消防庁調べ」）

2　「住宅用火災警報器」ってどんなもの

○住宅用火災警報器は、「煙」や「熱」を感知して警報音を鳴らし火災発生を知らせるものです。
○種類は、「煙感知式」と「熱感知式」があります。

3　購入については

○家電販売店やホームセンター等で販売しています。
○購入の際は、国の基準に合格したことを示すＮＳマーク（日本消防検定協会の鑑定マーク）が付いたものを選びましょう。
悪質業者による訪問販売に注意しましょう。

お 手 柄 事 例 集

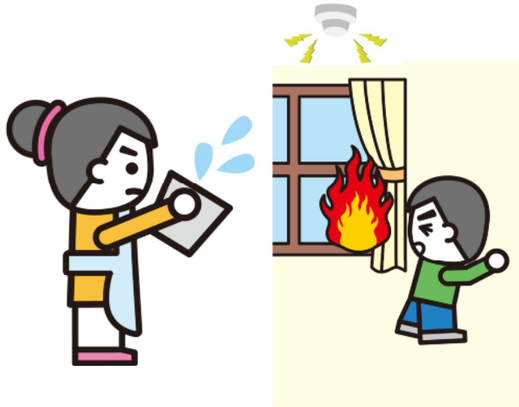
～ 住宅用火災警報器を付けてて良かったね！ ～

【火災に早く気付き、命を取り止めることができた主な事例】

○自宅２階で就寝中、１階からブザー音のような音がしたため、階段に出たところ１階から煙が出ていた。就寝中の妻を起こし、階段から屋外に避難した後、１１９番通報した。
【焼損程度：全焼】

○鉄骨造一部木造２階建住宅の１階から出火。出火当時、妻（75歳）は１階、夫（78歳）は２階で就寝中、妻が、階段に設置していた「住警器」の警報音で目が覚め、２階で寝ていた夫を起こし、二人で避難した。【焼損程度：全焼】

○高齢者夫婦の二人暮らし住宅で就寝中、妻が、寝室直近の廊下に設置していた「住警器」の警報音に気付き、隣の寝室で就寝中の夫に知らせ屋外へ避難した。屋外へ避難後、風呂のかまど部分から炎が上がっているのを確認し、近隣住民と初期消火を試みるが、炎の勢いが強く消火困難状態であった。【焼損程度：全焼】



【早く気付き、火災発生または拡大に至らなかった主な事例】

○女性が夕食の調理をはじめ、てんぷら油の入った鍋を火にかけた後、来客があり、玄関で対応中に台所設置の「住警器」の警報音で異常に気がついた。
鍋を確認すると白煙が噴出しており、やがて炎が上がり始めた。
家族が寝室より布団と毛布を持ってきて鍋を覆い窒息消火を試み消火した後、来客の携帯電話を借りて１１９番通報した。

【隣人等が警報音に気付き、火災発生または拡大に至らなかった主な事例】

○男性が飲酒後に帰宅し、味噌汁鍋をガステーブルに掛け、そのまま１階居間で寝てしまい鍋を焦がしたため、１階寝室に設置してあった「住警器」が発報した。その後、隣人の男性２名が住警器の警報音で駆け付けガスを切り、当事者を起こし早期の１１９番通報により火災に至らなかった。

○９５歳男性の独居老人が煮物の鍋をガスコンロにかけ点火後、友人からの電話での誘いで外出した。鍋の内容物が焦げ煙が発生し「住警器」が作動し、当該住警器と連動（無線）の補助警報装置を設置した隣の主婦が気付き１１９番通報した。

○市営住宅において、仏壇に供えていた線香が絨毯に落下したことに気付かず、居住者が外出して出火した。隣人が「住警器」の警報音に気付き、１１９番通報し、近隣住民とともに消火した。